

産地生産基盤パワーアップ事業  
都道府県評価報告書（収益性向上対策）

都道府県名 福島県

I 産地パワーアップ計画（収益性向上タイプ）

1 成果目標

(1) 生産コスト又は集出荷・加工コストの10%以上の削減

地域協議会名	整理番号	地区名	対象作物	取組内容	成果目標												スマート農業推進枠 導入・定着の取組の実施内容	事後評価の検証方法 (※定量的な検証ができること。)	達成率 (%)	地域協議会等の評価	都道府県の評価	備考
					現状			目標			実績											
					年度	面積 単位	生産量、出荷量 又は処理量 単位	年度	面積 単位	生産量、出荷量 又は処理量 単位	年度	面積 単位	生産量、出荷量 又は処理量 単位									
南会津町農業再生協議会	3	館岩	そば	①中心的経営体への農地利用集積による規模拡大 ②高性能機械の効率的利用 ③県オリジナル品種「会津のかおり」や在来種による特色あるそば産地づくり ④遊休農地を活用した「そばの郷づくり」 ⑤地域特産物として、玄そば、そば粉の販売とそば加工品の原料提供	生産コストの10%以上の削減 【12.7%削減】	H28	46,281円/10a	73.5 ha	26.5 t	R1	40,394円/10a	82.5 ha	29.1 t	R1	42,231円/10a	80.7 ha	38.5 t	各生産者の決算書及び青色申告書等により検証する	68.8%	事業主体として取組拡大を行ってきたが、栽培条件に適する農地の取得が難しく農地集積が進んでいない状況である。経費削減に向けてライムソー（肥料散布機）を導入したことで使用する肥料の量は減少しているものの、単価等の上昇により10a当たりの肥料費がH28年の現状値より200円程度増えており大きな効果は上がっていない。農地集積が進んでいないために、面積拡大のため導入した農機具の単位面積当たりのコスト低減が図れなかった。引き続き資材等に係る経費削減を進めるとともに、作付面積の増大につながるよう指導を行っていく。	取り組み拡大に伴う経費の増大により生産コストの削減目標を達成できなかった。肥料のコストが上がっている中ではあるが、今後も資材等経費や光熱動力費等の削減と面積拡大に取り組み、生産コストの低減に努めるよう指導していく。	
南会津町農業再生協議会	4	館岩	水稻	① 低コスト栽培技術（温湯種子消毒、プール育苗、密苗、側条施肥、疎植栽培） ② 中心的経営体への農地利用集積 ③ 高効率機械の効率的利用	生産コストの10%以上の削減 【12.5%削減】	H28	142,873円/10a	55 ha		R1	125,068円/10a	78 ha		R1	129,995円/10a	64 ha		各生産者の決算書及び青色申告書等により検証する	72.3%	それぞれの事業主体ごとに、農業機械導入による作業効率化や、人件費、資材費の低減が図られ、生産コストが減少したが、作付け面積の拡大が計画通り拡大に至らなかったり、機械の維持管理費が増加したため、全体的には計画未達成となった。今後も、水稻面積の拡大を目指し、農作業の効率化や、資材の効率的利用による生産コスト低減を目指す。（R2作付面積64ha）	フレコン出荷による費用削減の効果はあったが、機械導入に伴う維持費の増加もあり目標が達成できなかった。引き続き経費削減と農地利用集積によるコスト低減に努めるよう指導した。	
南会津町農業再生協議会	5	伊南	そば	① 中心的経営体への農地利用集積による規模拡大 ② 高性能機械の効率的利用。 ③ 遊休農地の活用による戦略的経営につなげる。 ④ 等級検査の受検により高品質そばを目指す。 ⑤ 自家加工販売を行い経営安定化を図る。	生産コストの10%以上の削減 【10.8%削減】	H28	50,670円/10a	8.5 ha	3.1 t	R1	45,218円/10a	30 ha	3.4 t	R1	45,757円/10a	9.2 ha	4.6 t	各生産者の決算書及び青色申告書等により検証する	90.1%	面積の拡大量が不調であり、農業経費に対する生産コストが上昇する形となった。面積は増加しているものの伊南地域内で、営農継続の意向が強くなり農地の大幅な集積には至っていないためである。令和2年度は大型機械の導入などにより生産コストの削減に取り組んでいる。今後もそばの栽培面積拡大を図るとともに、適切な農業資材の利用を指導し、生産コストの減少を目指す。	面積拡大が進まなかったこと等により、目標を達成できなかった。今後も高効率農業機械の活用による経費削減と面積拡大に取り組み、生産コストの低減に努めるよう指導していく。	
南会津町農業再生協議会	6	伊南	水稻	① 疎植栽培による育苗・田植作業の効率化 ② フレコン計量器導入による出荷作業の効率化 ③ 中心的経営体への農地利用集積による規模拡大 ④ 高性能機械の効率的利用	生産コストの10%以上の削減 【10.7%削減】	H28	120,148円/10a	61.9 ha		R1	107,311円/10a	77 ha		R1	110,140円/10a	72 ha		各生産者の決算書及び青色申告書等により検証する	78.0%	大型機械の導入により作業効率が向上し、係る経費は削減したものの、修繕費や面積拡大に伴う新たな農機具導入による減価償却費の増加により計画が未達成となった。以降も、高性能資材や効率的な栽培技術の推進により、生産コストの低減を図る。（R2作付面積72ha）	機械導入による費用削減の効果はあったが、修繕費や面積拡大に伴う新たな農機具導入による減価償却費の増により計画が未達成となった。今後、協議会と連携し循環型農業や作業効率化の指導を行い、生産コスト低減の目標達成を目指す。	

南会津町農業再生協議会	7	南郷	水稲	① 疎植栽培による育苗・田植作業の効率化 ② フレコン出荷による集出荷・流通コスト低減 ③ 中心的経営体への農地利用集積による規模拡大 ④ 高性能機械の効率的利用	生産コストの10%以上の削減【10.9%削減】	H28	114,673円/10a	83 ha		R1	102,157円/10a	118 ha		R1	94,247円/10a	101 ha			各生産者の決算書及び青色申告書等により検証する	163.2%	生産コスト削減率は概ね好調であり、今後の成果に期待できる。以降も、高性能機械の利用や効率的な栽培技術の推進により、生産コストの低減を図る。	効率的な栽培技術、高効率機械の導入により、コストを低減し目標を達成することができた。引き続き協議会、取組主体と連携し、コスト低減に努める。
新地町地域農業再生協議会	2	谷地小屋・杉目地区	大豆	①収量向上・低コスト化に必要な機械（コンバイン・溝掘機・レーザーレベラー）の導入 ②規模拡大による導入機械の効率的利用	生産コストの10%以上の削減【10.3%削減】	H28	22,119円/60kg	18 ha	生産量 160.6 kg/10a	R1	19,848円/60kg	25 ha	生産量 195 kg/10a	R1	20,761円/60kg	18.8 ha	生産量 201.9 kg/10a	別紙生産コスト計算表により目標値を算出。事後評価も同計算表を用いて算出する。	59.8%	コストについてはH28と比べ、H30（20,825円/10a）・R1（20,761円/10a）と目標達成には至らなかったが、年々コスト削減の傾向にある。また、面積の規模拡大については、H30が19.5haと拡大傾向にあったが、R1が18.8haとブロックローテーションにより減少した。しかし、機械導入後、単収はR1が201.9/10aと向上していることから効果があったと考えられる。来年度以降目標を達成できるよう、さらなるコスト削減のため、効果的な作業計画策定や、適切な除草剤の使用による除草効果の確保と経費（農薬費）の節減、地力に応じた施肥設計と効率的な施肥による経費（肥料費）節減と適期収穫と適切な乾燥による経費（燃料費）節減を指導していく。規模拡大についてはエリア内のブロックローテーションの計画を精査し、作付拡大を図るよう指導する。	機械導入によるコスト低減の効果がでてきている。目標達成に向け、引き続き機械の活用による規模拡大に取り組み、コスト削減を図るよう指導した。	
いわき地域農業再生協議会	6	山田南部・沼部	水稲	①人・農地プラン（林崎地区（山田南部））に位置づけられた担い手への農用地集積や農作業受委託の集約化。 ②中心的経営体の高効率農業機械の導入（トラクター、ハロー、畦塗り機、コンバイン）による生産コストの削減。 ③飼料用米の取組による生産コストの削減と経営安定。	生産コストの10%以上の削減【11.9%削減】	H27	102,047円/10a	16.2 ha		R1	89,855円/10a	42.2 ha		R1	106,453円/10a	42.2 ha	219.4 t	中心的経営体とその他における令和元年分の農業所得収支内訳書等の経費等を分析し検証する。	-36.1%	作付面積を拡大したが、直播栽培の面積が十分拡大できず、現状、種苗、農薬、燃料、修理費等において経費をカバーするまでには至っていない。直播栽培の技術向上を目指す。更に面積拡大を検討し、農地中間管理機構を活用し、効率化を図れる農地を借りるよう指導していく。併せて、来年度以降目標を達成できるよう、効果的な作業計画策定（ほ場耕耘・移植・収穫）、適切な除草剤の使用による除草効果の確保と経費（農薬費）の節減、地力に応じた施肥設計と効率的な施肥による経費（肥料費）節減とイネの倒伏防止によるスムーズな収穫の実践、適期収穫と適切な乾燥による経費（燃料費）節減を指導していく。（R2作付面積43ha）	農薬費や光熱費及び賃借料の増や面積拡大に伴う新たな農機具等の導入により減価償却費がかさんだことで生産コスト削減目標が達成できなかった。スケールメリットを享受できるよう農地利用集積を進めるとともに、高効率農業機械の利用による更なる低コスト栽培への取り組みを指導していく。	
いわき地域農業再生協議会	8	大久東部・小久	水稲	①人・農地プラン（大久地区（大久町大久東部）、小久地区（大久町小久））に位置づけられた担い手への農地中間管理機構を利用した農用地集積。 ②中心的経営体の高効率農業機械の導入（トラクター、ロータリー、プラウ、乾燥機、モア、色彩選別機、自動計量機）による生産コストの削減と経営安定。 ③飼料用米の取組による生産コスト	生産コストの10%以上の削減【10.5%削減】	H28	104,892円/10a	43.9 ha		R1	93,896円/10a	48.2 ha		R1	103,319円/10a	48.2 ha	250.6 t	中心的経営体とその他における令和元年分の農業所得収支内訳書等の経費等を分析し検証する。	14.3%	作付面積を拡大したが、貸し手、借り手の話し合いが上手く進まず、農地集積が十分できなかったことから、現状、種苗、燃料、諸材料、修理費等において経費をカバーするまでには至っていない。更に面積拡大を検討し、農地中間管理機構を活用し、効率化を図れる農地を借りるよう指導していく。併せて、来年度以降目標を達成できるよう、効果的な作業計画策定（ほ場耕耘・移植・収穫）、適切な除草剤の使用による除草効果の確保と経費（農薬費）の節減、地力に応じた施肥設計と効率的な施肥による経費（肥料費）節減とイネの倒伏防止によるスムーズな収穫の実践、適期収穫と適切な乾燥による経費（燃料費）節減を指導していく。（R2作付面積49.8ha）	光熱動力費や修理費、面積拡大に伴う新たな農機具等の導入により減価償却費がかさんだことで生産コスト削減目標が達成できなかった。スケールメリットを享受できるよう農地利用集積を進めるとともに、材料費等の経費削減や高効率農業機械の利用による更なる低コスト栽培への取り組みを指導していく。	

いわき地域農業再生協議会	9	平地区	水稻	①地域の担い手（大規模稲作指向の認定農業者）への農地利用集積や農作業受委託の集約化。 ②中心的経営体の高効率農業機械の導入（コンバイン、モア、プラウ、乾燥機、フレコンスケール）による生産コストの削減と経営安定。 ③飼料用米の取組による生産コストの削減と経営安定。 ④直播栽培への取組による生産コストの削減。	生産コストの10%以上の削減【10.1%削減】	H28	105,826円/10a	84.4 ha		R1	95,111円/10a	109.7 ha		R1	101,822円/10a	109.7 ha	570.4 t		中心的経営体とその他における令和元年分の農業所得収支内訳書等の経費等を分析し検証する。	37.4%	作付面積を拡大したが、貸し手、借り手の話し合いが上手く進まず、農地集積が十分できなかったことから、現状、種苗、農業、燃料、諸材料、修理費等において経費をカバーするまでには至っていない。更に面積拡大を検討し、農地中間管理機構を活用し、効率化を図れる農地を借りよう指導していく。併せて、来年度以降目標を達成できるよう、効果的な作業計画策定（ほ場耕耘・移植・収穫）、適切な除草剤の使用による除草効果の確保と経費（農業費）の節減、地力に応じた施肥設計と効率的な施肥による経費（肥料費）節減とイネの倒伏防止によるスムーズな収穫の実践、適期収穫と適切な乾燥による経費（燃料費）節減を指導していく。（R2作付面積109.9ha）	光熱動力費や修理費の増や面積拡大に伴う新たな農機具等の導入により減価償却費がかさんだことにより生産コスト削減目標が達成できなかった。スケールメリットを享受できるよう農地利用集積を進めるとともに、燃料費節減と高効率農業機械の利用による更なる低コスト栽培への取り組みを指導していく。
いわき地域農業再生協議会	10	いわき市平豊間	水稻	①地域の担い手（大規模稲作指向の認定農業者）への農地利用集積や農作業受委託の集約化。 ②中心的経営体の高効率農業機械の導入（コンバイン）による生産コストの削減と経営安定。 ③飼料用米の取組による生産コストの削減と経営安定。	生産コストの10%以上の削減【10.6%削減】	H28	107,105円/10a	10.4 ha		R1	95,797円/10a	14.8 ha		R1	103,004円/10a	14.8 ha	77.0		中心的経営体とその他における令和元年分の農業所得収支内訳書等の経費等を分析し検証する。	36.3%	作付面積を拡大したが、肥料、農業の見直しが不十分であったため、現状、種苗、肥料、農業、諸材料費等において経費をカバーするまでには至っていない。更に面積拡大を検討し、農地中間管理機構を活用し、効率化を図れる農地を借りよう指導していく。併せて、来年度以降目標を達成できるよう、効果的な作業計画策定（ほ場耕耘・移植・収穫）、適切な除草剤の使用による除草効果の確保と経費（農業費）の節減、地力に応じた施肥設計と効率的な施肥による経費（肥料費）節減を指導していく。（R2作付面積13.6ha）	農業費や諸材料費の増により生産コスト削減目標が達成できなかった。スケールメリットを享受できるよう農地利用集積を進めるとともに、経費削減と高効率農業機械の利用による更なる低コスト栽培への取り組みを指導していく。
いわき地域農業再生協議会	11	常磐・渡辺・添野地区	水稻	①地域の担い手（大規模稲作指向の認定農業者）への農地利用集積や農作業受委託の集約化。 ②中心的経営体の高効率農業機械の導入（田植機、コンバイン、マニユアスプレッダ）による生産コストの削減と経営安定。 ③飼料用米の取組による生産コストの削減と経営安定。 ④直播栽培への取組による生産コストの削減。	生産コストの10%以上の削減【10.1%削減】	H28	104,935円/10a	76.3 ha		R1	94,362円/10a	111.3 ha		R1	100,394円/10a	111.3 ha	578.8 t		中心的経営体とその他における令和元年分の農業所得収支内訳書等の経費等を分析し検証する。	42.9%	作付面積を拡大したが、貸し手、借り手の話し合いが上手く進まず、農地集積が十分できなかったことから、現状、種苗、農業、修理費等において経費をカバーするまでには至っていない。更に面積拡大を検討し、農地中間管理機構を活用し、効率化を図れる農地を借りよう指導していく。併せて、来年度以降目標を達成できるよう、効果的な作業計画策定（ほ場耕耘・移植・収穫）、適切な除草剤の使用による除草効果の確保と経費（農業費）の節減、地力に応じた施肥設計と効率的な施肥による経費（肥料費）節減を指導していく。（R2作付面積109ha）	諸材料費の増や面積拡大に伴う新たな農機具等の導入により減価償却費がかさんだことにより生産コスト削減目標が達成できなかった。スケールメリットを享受できるよう農地利用集積を進めるとともに、高効率農業機械の利用による更なる低コスト栽培への取り組みを指導していく。
いわき地域農業再生協議会	12	山田北部	水稻	①地域の担い手（大規模稲作指向の認定農業者）への農地利用集積や農作業受委託の集約化。 ②中心的経営体の高効率農業機械の導入（コンバイン、靱摺り機、モア）による生産コストの削減と経営安定。 ③飼料用米の取組による生産コストの削減と経営安定。	生産コストの10%以上の削減【10.1%削減】	H28	110,029円/10a	12.1 ha		R1	98,882円/10a	22.4 ha		R1	110,239円/10a	22.4 ha	116.5 t		中心的経営体とその他における令和元年分の農業所得収支内訳書等の経費等を分析し検証する。	-1.9%	作付面積を拡大したが、貸し手、借り手の話し合いが上手く進まず、農地集積が十分できなかったことから、現状、種苗、農業、燃料、修理費等において経費をカバーするまでには至っていない。更に面積拡大を検討し、農地中間管理機構を活用し、効率化を図れる農地を借りよう指導していく。併せて、来年度以降目標を達成できるよう、効果的な作業計画策定（ほ場耕耘・移植・収穫）、適切な除草剤の使用による除草効果の確保と経費（農業費）の節減、地力に応じた施肥設計と効率的な施肥による経費（肥料費）節減とイネの倒伏防止によるスムーズな収穫の実践、適期収穫と適切な乾燥による経費（燃料費）節減を指導していく。（R2作付面積36.5ha）	光熱動力費や修理費の増、面積拡大に伴う新たな農機具等の導入により減価償却費がかさんだことにより生産コスト削減目標が達成できなかった。スケールメリットを享受できるよう農地利用集積を進めるとともに、燃料費削減と高効率農業機械の利用による更なる低コスト栽培への取り組みを指導していく。

いわき地域農業再生協議会	13	瀬戸・勿来酒井地区	水稲	①地域の担い手（大規模稲作指向の認定農業者）への農地利用集積や農作業受委託の集約化。 ②中心的経営体の高効率農業機械の導入（コンバイン、籾摺り機、選別機、フレコンスケール）による生産コストの削減と経営安定。 ③飼料用米の取組による生産コストの削減と経営安定。	生産コストの10%以上の削減【10.0%削減】	H28	106,388円/10a	19.5 ha		R1	95,699円/10a	28.9 ha		R1	104,222円/10a	28.9 ha	150.3 t		中心的経営体とその他における令和元年分の農業所得収支内訳書等の経費等を分析し検証する。	20.3%	作付面積を拡大したが、貸し手、借り手の話し合いが上手く進まず、農地集積が十分できなかったことから、現状、種苗、農薬、諸材料費、修理費等において経費をカバーするまでには至っていない。更に面積拡大を検討し、農地中間管理機構を活用し、効率化を図れる農地を借りよう指導していく。併せて、来年度以降目標を達成できるよう、効果的な作業計画策定（ほ場耕耘・移植・収穫）、適切な除草剤の使用による除草効果の確保と経費（農薬費）の削減、地力に応じた施肥設計と効率的な施肥による経費（肥料費）削減を指導していく。（R2作付面積28.5ha）	農業費や諸材料費の増及び面積拡大に伴う新たな農機具等の導入により減価償却費がかさんだことにより生産コスト削減目標が達成できなかった。スケールメリットを享受できるよう農地利用集積を進めるとともに、経費削減と高効率農業機械の利用による更なる低コスト栽培への取り組みを指導していく。
いわき地域農業再生協議会	14	いわき市三和渡戸	水稲	より拡大（5.9ha(前作は水稲)）。 ②中心的経営体の高効率農業機械の導入（トラクタ、コンバイン）による生産コストの削減と経営安定。 ③飼料用米の取組による生産コストの削減と経営安定。	生産コストの10%以上の削減【12.1%削減】	H28	131,575円/10a	10.1 ha		R1	115,637円/10a	16 ha		R1	111,626円/10a	16 ha	83.2 t		中心的経営体とその他における令和元年分の農業所得収支内訳書等の経費等を分析し検証する。	125.2%	作付面積の拡大により、種苗費、肥料費、賃借料等の経費をカバーすることができた。また高効率機械の導入によりコストの低減が図られた。今後は、物価上昇によるコスト増に対応するため引き続き効果的な作業計画を策定し、更に面積拡大していくことを期待する。（R2作付面積25.2ha）	担い手への農地集積、高効率機械の導入により、コストを低減し目標を達成することができた。引き続き協議会、取組主体と連携し、コスト低減に努める。
大玉村地域農業再生協議会	1	東部地区	水稲	①生産コストの低減技術（直播栽培、疎植栽培、密苗栽培）及び肥料費・農薬費の見直し ②農地利用集積による規模拡大	生産コストの10%以上の削減【10.4%削減】	H28	130,502円/10a	42.88 ha	処理量 0 kg	R1	116,992円/10a	60 ha	処理量 325500 kg	R1	132,223円/10a	48.5 ha	処理量 234,122		確定申告書・決算書等の実績により確認する	-12.7%	当該地域の担い手への集約を図っていくことを目標としているが、耕作地の集約が図られていない現状がみられる。また、もう一つの目標である生産コストにおいては、農業施設、農業機械の大型化などにより、導入時・維持経費（税、減価償却費等）の増がみられる。今後は、中心的経営体の密苗栽培などによる省力化を推進し、中心的経営体への農地集積を図っていく。これにより、離農者などに対応し、地域の農業の維持を図っていく。（R2面積は48.5ha）	完成が30年度に遅れた乾燥調製施設が本格的に稼働を開始したことで農地利用集積が進み始めたものの、集積が計画達成の途上にあるためスケールメリットが十分に発揮できず、目標には達していない。密苗による省力化等の効果は出ている。2年度は人件費が減になる見込みであることや内部でのコスト削減に努めていることを確認したが、なお引き続き農地利用集積や密苗の面積拡大を図ることで生産コストの低減を進めるよう指導した。
会津若松市農業再生協議会	1	平塚	水稲	①集落担い手への土地利用集積や作業受委託を推進 ②担い手の機械作業の集約化及び乾燥調製施設の新設による作業効率化を推進 ③省力・低コスト化のための必要な施設・機械の導入を推進	生産コストの10%以上の削減【11.3%削減】	H28	124,366円/10a	37.3 ha	処理量 -	R1	110,330円/10a	46.4 ha	処理量 241800 kg	R1	136,762円/10a	53.8 ha	252,450 kg		確定申告書・決算書等の実績により確認する	-88.3%	水稲作付け面積の約10haの急拡大に伴う農機具の導入・既存農機の更新に伴い、特に減価償却費の上昇による生産費の増加となったところであり、今後における中長期的な費用圧縮を見据えた計画的な農機具等の導入について指導した。なお主な改善策は面積拡大である。令和2年末までの期限で農業経営改善計画が認定され、取組主体について41.7ha→45haへの面積拡大を計画しており、概ね順調に進捗しているが、今年度末の計画更新時には更なる面積拡大目標を掲げさせる必要があると認識している。（R2取組主体作付面積44.1ha）	面積の拡大に伴う農機具導入に費用が掛かったために目標が未達となった。来年度以降、中長期的な費用圧縮を見据えた計画的な農機具等の導入について指導したほか、45ha以上への面積拡大に向け計画的に取り組むとともに生産費の削減に努めるよう指導した。

鮫川村 地域農業再生 協議会	1	鮫川西野	水稻	①中心的経営体への機械作業の集約化 ②高性能機械の効率利用	生産コストの10%以上の削減【12.0%削減】	H 28	121,100円 /10a	9.5	ha		R1	106,600円 /10a	38.7	ha		R1	99,688円 /10a	25.4	ha	120,650	kg		法人決算書等生産コストが確認できる書類により検証を行う。	147.7%	物価高騰による農薬費の増、機械修繕費の増により一部コスト高となった。収穫機械の性能向上による燃料費の削減、育苗方法及び施肥設計の見直しによる種苗費、肥料費の削減が図られたことにより生産コストの16%削減となり目標が達成された。今後も面積拡大を図りながら更なるコスト削減に取り組むよう期待する。	物価高騰により一部でコスト高となる中、高性能機械の効率利用等によりコストを削減し、目標を達成できなかった。今後も面積拡大を図りながら更なるコスト削減に取り組めるよう支援する。	実績については取組主体の令和1年度決算額が確定しないため、平成30年度での報告としている。令和1年度決算も平成29年度と同等の成果が見込まれている。
----------------------	---	------	----	----------------------------------	-------------------------	---------	------------------	-----	----	--	----	------------------	------	----	--	----	-----------------	------	----	---------	----	--	------------------------------	--------	--	---	--

都道府県 平均達成率	48.2%	総合 所見	生産コストを目標以上に削減できたところもあり、建物の整備や機械の導入による効果はあったとみられる。しかし、取組拡大に伴う設備や機械の導入及び物価の高騰等による経費増大に対し、作付面積の拡大が十分でなかったために生産コストが増加し、目標を達成できなかったところも多くあった。成果目標達成地区については引き続き経費削減や面積拡大による生産コストの削減に努めるよう、協議会とも連携して支援を行う。成果目標未達地区については、取組み拡大に向けた建物や高効率機械等の導入による減価償却等がかさんだところも多いが、今後は建物や機械の利用によるさらなる高効率化を進めるとともに、その他経費の削減や面積拡大に取り組むことで生産コストの低減を達成できるよう協議会とも連携しながら指導していく。																			
---------------	-------	----------	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--